

JEG ニュースレター 175号

www.jegschweiz.com

2020年5月10日

小さな証

神のなさることは時
にかなって美しい、
失業し試練のなかで
遭遇した神さまの導き。
P2

オンライン礼拝

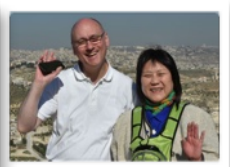
コロナウイルス感染
防止のため政府要請
を受けて、4月から
礼拝はオンラインで
行っています。P3

千恵子さんの思い出

4月2日に天に帰られ
たクライナー佐々木千
恵子姉が地上に残され
た思い出を綴っていた
できました。P4から

コロナとキリスト者

中国武漢に発した新型
肺炎コロナウイルスは
瞬間に世界に拡がり
未曾有の危機を人類に
もたらしています。
P14から



小さな祈り

天のおとうさま
私たちの毎日の、平凡に見える日常の務めが
どんなに小さく見えようとも、
それが、栄光の輝きに満ちた御国へ向かっての、
神の相続人としての一步であることを
信じていることができますように。

"わたしはあなたがたに平安を残します。わたしの平安を与えます。わたしは、世が与えるのと同じようには与えません。あなたがたは心を騒がせてはなりません。ひるんではなりません。"

ヨハネの福音書 14章27節

2020年の春が、人類にとって決して忘れ得ぬ苦しみのある年になるであろうと誰が予測できたでしょう。

この時代に生きるキリスト者にとっての希望と使命とは、。共に祈りつつ求めていきたいと思ひます。

ちいさな証

神様の介入がなかったら

脇山 斉

スイス日本語福音キリスト教会会員



主の御名を賛美します。

昔いまし、今もいます神様に感謝したいと思えます。

人生の折り返しはとっくに過ぎ、すでに還暦も過ぎましたが、今日まで守られ生かされていることに感謝です。確かに体力は落ち、腰や肩などに痛みがあったり、歯の具合も治療はしたけどまだまだ

調子が悪く、

あちこち万全とは言えません。それでも仕事も与えられ、日々の食べ物も与えられ不自由なく暮らせています。

仕事といえば今の会社に入れた経緯を紹介します。

そこには確かに神様の介入があったと思います。今の会社は9年近くになりやっと一人前のトラックドライバーになってきたように思います。思い返せば入社できたのは今は亡きゲルスタ牧師の口添えがあったからです。牧師が軍隊に行っていた時の上司だった人が、今私が勤めている会社の（今は定年しておられますが）当時は社長だったということで話が進んでいきました。とりあえず試し運転をさせてもらったのですが、何せ当時まだ私は免許は取り立てで、経験不足からか運転技術に難ありと

見られて、もう少し経験が必要と言われたのです。そうなるに練習するしかありません。

しかしどうやって？と置いていたら、またしても牧師から職安（RAV）にお金を出してもらえ算段をいただきました。そして、無事講習を自動車学校でしかも無料で受けることができ修了書をもらい、入社運びとなりました。そこで、もし牧師の一言がなかったなら、職安からの援助がなかったのなら、と考えると、やはり神様の介入がなかったならと思えるのは私だけでしょうか。まさしく神様のなさることは時にかなって美しいという御言葉そのものです。



また天気のように、ある時は晴れ、雨、雪、そして嵐の時もあるように、人にかかわってくる来る状況というのは平等なんだな—と思います。違いはそこに神様の介入があるかと思えるかどうかということだと思えます。

いま世界を騒がしているコロナウイルスでもある意味平等に襲いかかっています。お金持ちだろうが、有名人だろうが、クリスチャンだろうがそうでない人々にもです。この後、イエス様の福音は世界中に広まっていく、またそうなるに確信しています。

つい先日一人の姉妹が天に召されました。闘病生活の中でも明るい方で、笑顔の素敵な姉妹でした。この世ではもうお会いできないけど、天国に行った時に主の身許でお会いできるのを楽しみにしています。



私の好きなアッペンツェルにて

1、オンライン礼拝

新型コロナウイルス感染防止のため、スイス政府の集会自粛の要請を受け、スイスJEGでも4月の礼拝から、歴史上初めてオンライン礼拝をビデオ会議システムZOOMを使って行いました。顔と顔を合せず通常の主日礼拝とは異なり、コンピューターのモニター上に、奉仕者や説教者、さらに出席者の顔を見ながら行う礼拝は確かに奇妙な感覚でした。

しかし、愛する兄弟姉妹と会おうと思っても会えない困難な状況にあって、お互いの表情を見れるこの新しいシステムは、参加者に概ね好評のようでした。このオンライン礼拝には、毎回50名近くの参加者があり、遠くてJEGの礼拝には参加できないチェコの黒田姉や、マレーシアの加藤兄らが参加され、新しい伝道の可能性を示されたようにも感じました。

4月からの”メッセージ”、ならびにドイツ語翻訳のファイルは、スイス日本語福音キリスト教会のホームページからダウンロードしてご利用いただけます。https://www.jegschweiz.com/

2、加藤たくみ牧師のお証

4月5日のイースター礼拝において、フィンランドからお越しいただく予定だった加藤たくみ牧師の感動的な証は、これもオンラインでなされました。加藤牧師はフィンランドのラップランドを拠点に、2008年から伝道に励んでおられます。この証の録音ならびに録画を視聴されたい方はinfo@jegschweiz.comにご連絡ください。



3、オンライン青年会

去る4月4日(土曜日)に予定していた今村宅での一日青年会のプログラム(バイブルスタディ、ハイキング、バーベキュー)は、コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり、急遽、オンラインでの青年会に変更して行われました。午前、夜とそれぞれ15名ほどの若者が集まりました。当日のプログラムは以下の通りです。

午前の部(10:00~11:30)

- 1) 日本に短期留学中の青年や、急遽日本へ帰国した青年も含めてそれぞれの近況報告。
- 2) 今、この時代に生かされていること。
- 3) 今、私たちにできること。神様から与えられている課題。
- 4) 終末に向かって神様が私達に伝えようとしていることと宣教。

夜の部(20:00~21:30) マタイ24章から質問とシェア(当初予定していた「祈りについて、神様と私の関係」はできませんでした。後日改めて) 今村葉子記

4、祈り会

通常、デューベンドルフでの礼拝前の一時間”祈り会”を持っておりましたが、これもZoomを使ってオンライン祈り会となりました。

祈り会は、スイスJEGの礼拝のない日曜日の午後5時から有志によって開かれます。これまで、4月12日、

4月19日、5月3日に開催され、それぞれに15-16人が参加し、あらかじめ提出された祈禱課題が、その日の祈り会の参加者に配布され、三つのグループに分かれて、とりなしの祈りを主に捧げました。



5、オンライン婦人会

婦人会の報告をさせていただきます。4月6日(月)実施の予定であった初めての婦人会もオンラインとなりました。この日、婦人会は二部編成で行われました。一部はフィンランドからインターネットでご参加された加藤たくみ師と共にスイス JEGから2名の姉妹と求道中のYさんと私が参加しました。キリスト教にたいしての様々な質問に答えたり、主は癒しの祈りを通し、Yさんを信仰告白に導いてくださいました。二部はたくみ師と癒しの祈りを習得中の姉妹たちが参加して、学びの中での質問にたくみ師が答え、また感想などを述べ合いました。たくみ師のほぼ一日がかりの献身的な奉仕に心から感謝いたします。 トムセン千香子記

6、クライナー佐々木千恵子姉が召天

私たちの愛するクライナー・佐々木千恵子姉が4月2日朝、アンツカ兄に看取られながら、イエス様の元に帰られました。千恵子姉は、肺と肝臓に癌が転移し、苦しい化学療法に耐え闘病されていましたが、3月はじめには化学療法を止めておられました。火曜日の朝には、スイス教会の兄姉とのオンライン・デバーションに出られましたが、それが最後となりました。



いつも、欧州の兄弟姉妹が祈ってくださるから治療にも耐えられ、希望を失わず感謝の日々が送られると、いつも感謝されていました。あの愛そのものであった千恵子姉の優しい笑顔がもう地上で見られない寂しさと、残されたアンツカ兄を思うと胸が裂かれそうな悲しみに襲われています。しかし、今は苦しみと痛みからすっきり解放され、イエスさまのみもとで憩っておられると信じます。

地上での別れはそれは寂しいものがありますが、キリスト者には天国での再会が約束されています。その約束を信じて、千恵子姉の分まで、残された人生を神様のために精一杯生きていきたいものと願わされています。

葬儀は4月4日身内だけで行われました。8月にお別れ会を開きたいとのアンツカ兄のご希望です。どうか、残されたご遺族の上に主の深い慰めがありますようにお祈りします。

7、第37回ヨーロッパ・キリスト者の集い

7月30日(木)から8月2日(日)まで、デュッセルドルフで開催予定のヨーロッパ・キリスト者の集いには、コロナウイルスの感染がヨーロッパに広がる中においても197名もの参加申し込みがありました。現在、ヨーロッパ各地においては、厳しい規制が徐々に緩められつつありますが、今後の感染状況は予断を許さず、集いの開催が許されるかどうか不明です。実行員会では、参加者の安全を最優先する立場から、5月31日の時点で、欧州に限らず全ての国で出入国規制が解除していなければ”集い”を中止にするという苦渋の決断をいたしました。どうか、みなさま、お祈りください。

8、世界各地からホットな情報が満載の月報/ニュースレター&メルマガが届いています!

オーニング宣教師、クンツ・プリスキラ宣教師、工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ、吉村美穂NL、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、ルーマニア川井勝太郎宣教師の週報、イザール通信、森ゆり空レタ配達人、”宣教の声”が届いています。お読みにになりたい方は、松林までご連絡ください。なお、スイスJEG会員の兄姉は、HPでパスワードを入れ、いつでも閲覧可能です。

葉の花のような

西迫美由紀

オランダ南部教会

千恵子さんのお悔やみカード(案内)が届きました。その写真を見ていると本当に彼女の声が聞こえてくるようです。あの笑顔は千恵子さんそのものです。ずっと見入ってしまいました。

彼女にもし最期に会うことができたとしたら、彼女に何を伝えたかっただろうかと考えました。彼女が残してくれたもの、それは優しさです。彼女の優しさは人を思うきめ細やかさ、暖かさ、そして愛らしさ。

色で例えると葉の花のようなやさしい黄色です。私達にとって春のドイツに広がる一面の葉の花畑は思い出に残る風景ですね。

千恵子さん、今は苦しみから解放され、主のみもとで美しい自然に囲まれ平安であられるのですね。

千恵子さん、あなたの優しさはこれからもずっと私の中に残り続けます。



千恵子さんが撮られた葉の花

2016年4月

気配りの方

井野 葉由美

ハンブルグ日本語福音キリスト教会

シュトゥットガルト日本語教会から千恵子さんが召されたお知らせをいただきました。その中に小山さんが丁寧に千恵子さんの人となりを書いてくださっていました。千恵子さんを知る方は皆さん、うなずきながら読まれたことと思います。

私は月に1度くらいの割合でメールマガジンを書いているのですが、配信すると、いつも真っ先に千恵子さんが「メールマガジン読みました。祈祷課題に沿ってお祈りし



千恵子さんに捧げることばの花束

ます。アーメン。」と返信をくださっていました。

本当に心配りの方でした。彼女の笑顔と明るい声で、天国はさらに明るくなったと思いますが、遺されたご家族の悲しみは、いかばかりかと思えます。

悲しみに耐えるのではなく、主イエスの温かい御腕の中で、イエス様と一緒に思っきり涙を流して千恵子さんのことを語り合ってほしいと願います。

一つになることを

斎藤のぞみ

FeG Tempelhof

日本語家庭集会

今回は、千恵子さんのことで、本当にいろいろとメールをくださったりして、感謝の一言です。神様が、きっと、こうやって私たちがみんなで、千恵

子さんを通して、ヨーロッパにいるキリスト者、そして、日本や他の国にもいるたくさんのキリスト者たちが、一つになることを、心から望んで、千恵子さんを御使いになったのだろーなー！と思います。

こうやって、神様のために何かをすることができて、本当に千恵子さんも、きっと天国で「そーよー！そうなのよ！」と、大声で叫んでいらっしゃるのでは？！と思うことしきりです。本当に！

神様のなさることで、不必要なことは、ひとつもないのですよね？！そう思われませんか？！

私も、この千恵子さんのことを通して、「本当に、神様は、いられるんだよね！本当に！」と思ったことは、しっかりと言うことができる。という素晴らしいお働きを千恵子さんは、なさった！と思うことしきりです。

どうぞ、お元気で、神様のみこころをおもい聞いて、日々をお送りくださいね！では、また！

Denn er hat seinen Engeln befohlen über dir, dass sie dich behüten auf allen deinen Wegen, dass sie dich auf Händen tragen und du deinen Fuß nicht an einen Stein stoßest. Psalm 91, 99-12

In Liebe und Dankbarkeit nehmen wir Abschied von meiner lieben Ehefrau, Mama, Oma, Hahauesama und Schwester

Chieko Sasaki-Kleiner

*1. August 1955 †2. April 2020

Du fehlst uns: Ansgar Kleiner
Tenshi und Carolin Kleiner mit Romeo
Kazuhiro und Satoko Sasaki
mit Yoshitaka und Hidetaka

Haid, den 2. April 2020
Die Beisetzung findet im engsten Familienkreis am 4. April auf dem Wendelinusfriedhof Sießen statt.
Eine Trauerfeier wird zu gegebener Zeit stattfinden.

アンツカさんへ

朴有里

ミラノ賛美教会

2007年、ミラノでのキリスト者の集いに、千恵子さんと息子さん、そのお友達たちと参加してくださいましたね。背の高い立派な息子さんの隣で、愛情深く優しい母親の表情をされていた千恵子さんの姿が印象深く心に残っています。（その時のエピソードも今となっては良い思い出ですね！）

ドイツ語ができない私は、お会いしてもいつも挨拶だけで、なかなかアンツカさんにお声掛けできなかったのですが、千恵子さんと一緒に礼拝を捧げられる姿を見て、親しみを感じていました。

数年前、千恵子さんが集会の中で、バイブルスタディの恵みについてお証しくくださった時には、その立ち姿、優しいお声、真っ直ぐな言葉に大変心打たれました。

千恵子さんが隣におられない寂しさは計り知れません。

ただ、アンツカさんを受けられた千恵子さんの愛が、アンツカさんの内に溢れていることを想像し、ご家族の上に主の慰めがありますようお祈りいたします。



ミラノ・スイス合同修養会 マジョーレ湖にて 2013年6月

再び会うときまで

内村まり子

ミラノ賛美教会

千恵子さんと3年半、4人のグループで一緒に聖書を学んできました。人生の大変な時に共に祈りあってきました。いつも神様に感謝し、賛美する千恵子さん、お名前のとおり、まるで千の恵みを神様から頂いていて、グループにいつも恵みが溢れました。千恵子さんの笑顔が目に残っています。



千恵子さんに捧げる
ことばの花束

『神の国』を学んだ時に、千恵子さんが『この世で救われるだけでなく、神様のご計画はその先の神の国に続くのね。イエス様が再臨される時にキリストにあって皆で再会して、神の国、素晴らしいところに住むのね！！（イザヤ11:6-11）』と希望に目をキラキラ輝かせ『主の栄光』という言葉は何回も口ずさみ、一緒に詩編145編を読んだことが心に残っています。

アンツカさん、千恵子さんの姿が見えなくなりどれほど寂しいかと思えます。復活の主にあって、千恵子さんと再び会う日が来ます。アンツカさん、またご一緒に賛美捧げましょう。

愛する人のために

中井美鈴

Calvary Chapel South Bay (CA. USA)

佐々木千恵子姉が2日に召されたお知らせを感謝致します。おっしゃる通り、痛みも涙もない神の国にお帰りになったのですね。

昨年のルーマニアでのヨーロッパ・キリスト者の集いのあと、クルージュ・ナポカの美しい湖畔で、彼女を含めて6人で囲ませて頂いたレストランの風景が目につかび、信じられないこのご報告に涙が溢れて止まりません。

今しがた心の中で思っていたことは、「愛するとは愛する人のために死にます。ではなく、愛する人のために生きていきます。」というほうがキリスト者としての生き方なのは、と思い巡らしていた時この報告を頂きました。

「生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである。」ガラテヤ人への手紙 2:20



ルーマニア・クルージュのセントラルパークで

アンツカ兄に神からの豊かな慰めが天の御国から降り注がれ、再会の希望が彼を励まして下さいます様にと、ここからお祈りさせていただきます。

どうぞ、欧州のみなさまも、この悲しみを乗り越えられて、天に凱旋された千恵子姉の良い思い出がこの悲しみに中であっても慰め励ましとなります様にお祈りします。

「主はとこしえに死を滅ぼし、主なる神はすべての顔から涙をぬぐい、その民のはずかしめを全地の上から除かれる。これは主の語られたことである。」
イザヤ書 25:8



千恵子さんに捧げる ことばの花束

す。「えっ、わたしに?」と聞くと、「どうぞ」と。水色、オレンジ色、薄緑色の点描が細筆で色づけられてあり、その優しい色をたどると十字架です。

「手作りなの?」と驚く私に「そう。」と控え目なお返事。裏に朱色で「ち」と細く小さく書かれています。

千恵子さんを「集い」に送り、司会の御奉仕などにお用いくださった神様に心より感謝申し上げます。神様は、千恵子さんを通して、私達に御愛を表してくださいました。

悲しみ、寂しさの中にいる私達に主からの慰めと平安がありますように。

私たちは夫を捧げた同僚

フリードリッヒ希興子

ハンブルグ日本語福音キリスト教会

千恵子さんが召された事を知り、沢山の思い出がよみがえります。私が千恵子さんと初めて会話ししたのはドイツの Geseke でキリスト者の集い(2005年)でした。話の内容は忘れてしまいましたが、その時から、お名前を記憶するようになりました。それ以来、「集い」でお会いすると、大勢の中から、姿を見出し、近寄って握手などして、「元気?」と挨拶していました。

「集い」には、ここ数年夫と一緒に参加し、千恵子さんのご主人の Ansgar さんと共に、賛美隊のメンバーとして、奉仕するようになりました。賛美曲が送られて来ると、日本語の文字をアルファベットに書き換える作業に時間がかかるので、「あ〜あ、」とつぶやきが出るほどでしたが、そんな時、千恵子さんも頑張ってるのだ、千恵子さんと私は、同じく夫を賛美奉仕者として捧げた同僚なのだ、という連帯意識を感じたものです。

昨夏のルーマニアでは、お食事の席が一緒になった折、子供時代のお話をうかがうチャンスがありました。団地の生活が、子供がたくさんいて、すごく楽しかったことなど明るい声で、ニコニコと微笑みながら話してくださった様子が、今はっきりとまぶたに浮かびます。

今、私の手元には、白い陶器のペンダントがあります。「これ」と少しはにかみながら、わたしに差し出されたもので

素晴らしい香りの微笑み

曹紗玉 (チョ・サオク)

韓国・日本宣教教会

わたしはヨーロッパ・キリスト者の集いを楽しみにしており、毎年参加して来ました。半年以上前から航空券を予約しての参加です。ヨーロッパの各地で開かれる集いは、わたしの信仰に大きな影響を与えておりました。いつも参加第一日には、これまでの集いで知り合



いになった方々が、見えているかどうかを真っ先に確かめました。今年もみなさんのお顔を思い出しながら、集いの日を心待ちにしていました。しかし、松林幸二郎さんの便りで、佐々木千恵子さんが天に召されましたことを知らされ、言葉では表せないほどの痛みを感じております。集いでお会いした時、千恵子さんは、いつも私の名前をやさしく呼んでくださった方でした。去年は赤いスカーフを首に結んでいたことも思い出されます。あの微笑みはイエス・キリストの愛によるもので素晴らしい香りでした。

千恵子さん!天国でお会いする日を楽しみにしております。その間、伝道の使命を果たし、イエス様の苦難を私の身にも満たしていきたいと思っております。残された御主人とご家族に、主の慰めと恵みが豊かに与えられますように、お祈りいたします。

欧州の日本語教会の皆様の上にも、主の導きが豊かにあるよう祈りつつ。



笑顔でハグできる日を

脇山多恵子

スイス日本語福音キリスト教会

千恵子さんと最初にお会いしたのは原家の家庭集会であったと思います。

千恵子さんを想う時、笑顔しか浮かびません。多くの才能がありながらそれをおくびにも出さずいつも謙遜でその上暖かくて一緒にいるだけでホッとさせていただけるそんな方でした。

健康そのものといった感じの千恵子さんから「私、癌になっちゃった」と聞かされた時はまさかという思いが強く、けれど「大丈夫、私もまだ生かされているから」と答え、その後は病気を通してそれまで以上に心が結び合い、祈り、励ましあうことができました。

そしてどんなに自分の調子が悪い時でも私のことを心配してくれる優しい姉妹でした。今でももう会えないなんて信じられません。私にとってとても大切な存在で日が経つごとに淋しさが増してきます。けれど、残された私達はとても辛いけど、今、千恵子さんはすべての苦しみから解放されてイエス様に「よく頑張ったね」ってほめてもらえて一番最高の場所にいることを思うとなぐさめられます。

また再会できることを心から待ち望み、笑顔でハグできる日が来ることを楽しみにしています。



スイスJEGイスラエル旅行2017 ハイファで

十字架のペンダント

トムセン千香子

スイス日本語福音キリスト教会

千恵子さんが天に召された日の朝、私は探し物のため寝室にある小ダンスを開けた。すると、そこに千恵子さんに作っていただいた陶器の十字架のペンダントが目飛び込んできた。私は千恵子さんはどうしておられるかなと思いながら、今日はこれを身につけようと、首にかけて。真っ白な磁器に、控えめだがはっきりとした色とりどりの絵の



千恵子さんに捧げる ことばの花束

けてくださった。



スイスJEG修養会で(独) 2012

具で丁寧に書かれた点々の十字架のペンダント。

その日着ていた若草色のシャツに息を吹き入れたように揺れた。千恵子さんのことを聞いたのは、その翌日だったと思う。まさかペンダントを身



につけたとほぼ同じ時刻に千恵子さんが主のもとに行かれたとは思う術もなかった。虫の知らせというと仏教っぽくなるけど、聖霊の働きとでも言えるのか、千恵子さんがお別れに来てくれたように思えた。

春の太陽のように温かな笑顔の千恵子さん。毎年6月ごろになると、お庭でできた紫蘇の苗をたくさん抱えて、教会の人達に分

今年もその紫蘇はうちのバルコニーで沢山の芽を出している。紫蘇をいただきながら、今年は殊の外、千恵子さんのこと思い出さるうな。もう地上では会えないけど、天国で「いらっしやーい会えて嬉しいわ。」って、あの春の太陽のような笑顔で迎えてくれるに違いない。

千恵子さん、また会う日を楽しみにしているよ。

ハレルヤで迎えてね!

クスター節子

スイス日本語福音キリスト教会

天国の住み心地はいかがですか? あなたが天のお父さまのところに行かれてから早1ヶ月近くになりますね。その間、コロナのためzoomでの礼拝になり、お会いしてなくても当たり前になり、あなたがもうこの世におられないのがまだ実感として感じられない毎日です。



ただ、あなたからのハレルヤのメールが届かないのが、唯一あなたが、もう私たちの間にいらっしゃらないことを伝えています。教会でお会いした後、必ずあなたから感謝と喜びのハレルヤのメールをいただき、どんなに心が明るくなったことか。

また、あなたは毎年お庭で丹精して育てられた紫蘇の苗を、たくさん兄弟姉妹のために持ってきてくださいましたね。あなたの苗は何時もたくさん大きな葉を生やしてくれるので、寿司屋に行くときは摘んで持って行き、それでお寿司を握ってもらったものです。次にあなたにお会いできるのは私がそちらに帰国するときですね。そのとき



千恵子さんに捧げる ことばの花束



スイス・ミラノ合同修養会にて、中野雄一郎先生ご夫妻とともに 2013

にはハレルヤで迎えてくださいね。その時までしばしのお別れです。あなたが作ってくださった片口の器を使いながら、あなたを偲びましょう。

仲睦まじかったお二人

中山勝也／雅子
豊橋福音キリスト教会

千恵子さんとアンツカさんとは、2017年の聖地旅行で一緒させて頂きました。私たちにとって初めての聖地旅行で、初めてお会いする方たちばかりでしたが、そんな中でお二人ととても楽しく良いお交わりを与えてくださった主に感謝しております。夕食でのお交わりで千恵子さんとアンツカさんとの仲睦まじさが良い記憶として残っております。

聖地旅行の後、しばらくして千恵子さんが大病で入院されたと聞いて聖地旅行ではあんなにお元気だったのにと突然のことで驚いていました。その後、手術も成功し



て、キリスト者の集いでも再びお元気な姿でお会いすることができて、とても嬉しく思っていました。ただ今回、千恵子さんが天に召されたとお聞きしてアンツカさんや家族の皆様の悲しみを思うと心が痛みます。主が残されたご家族の方々に慰めを与えてくださるようお祈りしております。



聖地旅行2017 カイザリアにて

一貫した主への信頼

黒田閑恵
チェコ在住

あなたはこんなに早く天に召されてしまいました。正直なところ、私にはまだ実感がないのです。今度のSkypeデボーションの時間が来ると、「おはようございませーす！」と、聞きなれた明るい声が聞こえてくる気がしてなりません。私は2018年の9月からごいっしょさせてもらいました。毎回それぞれの信仰からの意見、思いを述べられてきましたね。いつも感心していたのは、千恵子さんの一貫した主への信頼です。それこそ幼子のように無垢な心で主に信頼されていたね。

この時間に限らず、ながい年月の間、ただの一度も千恵子さんから人への否定的な言葉を聞いたことはなく、見たこともありませんでした。本当にいつも優しくあった千恵子さん。アンツカさんはじめご家族はなおのこと、そして私達はとても寂しくなっていました。でもね、今は天の御国で主に愛されている千恵子さんといつか再会できることを楽しみに、本当に楽しみにしています。

スイスJEG修養会 2018 でHochalp 1522m へ一緒に登山



みことばに包まれて

原憲二

スイス日本語福音キリスト教会

2000年7月からはじまった Meersburg の家庭集會でお会いして以来、私たちにとって千恵子さんは家族の一員のように、慰め合い、励まし合ってきた姉でした。

いつも謙遜で、笑顔の姉とは、礼拝、修養會、キリスト者の集い、イスラエル聖地旅行へ一緒に参加することがとても楽しみでした。

約2年前、闘病生活で自宅をあまり出られなくなった彼女を励まそうと、他に親しい兄弟を加え5人のグループで、週一回、スカイプによる早朝のデポーションを始めることにしました。互いに遠距離であっても、また体力が弱っていても、互いの自宅を結ぶことのできる、最近の技術はありがたいです。何よりも、続けるごとに、このNetデポーションの方法は聖書のみことばの力と、神様の恵みの感動と喜びを味わう、素晴らしいものであることを実感しました。



デポーション仲間 2019年6月

千恵子さんを励ますことはもとより、主はこの機会を通して、5人全員の信仰を育ててくださいました。さらに、この祝福を広くみんなに知っていただこうと、5人で力をあわせて、昨年、Netデポーションの紹介ビデオの作成までしたのです。もちろん、千恵子さんは満面の喜びで登場しています。

<https://www.youtube.com/watch?v=KOK5DibQOAK>

神様が千恵子さんを通して残してくださった大きな祝福です。

千恵子さんとは、亡くなる直前までこのデポーションを共にし、お祈りを共にすることが出来ました。亡くなる一日前、彼女は祈りの中で「イエス様、どうか私の手をひっぱって連れて行ってください」とその身をイエス様に委ねておられました。

翌朝、千恵子さんの最後をみとどけた夫、アンツカさんによれば、彼女は穏やかに平安の内に息を引き取ったそうです。最後まで主のみこ



イスラエル旅行クムラン 2019

千恵子さんに捧げる
ことばの花束

とばに包まれ、主に身をゆだね、多くの兄弟姉妹の祈りに包まれてこの世を去られました。一方、愛する伴侶、母親を失うことは厳しい悲しさであることを察します。残された夫、アンツカさん、息子の Tenshi くんの上に、主からの慰めがありますようにお祈りいたします。人の命は儚いものです。誰一人として死を避けることはできません。この全世界も、着々と終末に向かっていくことを一段と思わされるこの頃です。聖書の預言どおり、この世のおわりは来るでしょう。しかし、神様とイエスの恵みを信じる私たちは、人の死も、世の終末もそれがすべての終わりではなく、御国へ通ずる通過点であることを私たちは知っています。

この救いの希望を与え、約束してくださっている主の愛を感謝し、褒めたたえます。

いつも励ましてくれたね!

原しのぶ

スイス日本語福音キリスト教会

田辺先生ご夫妻からのご紹介ということで、千恵子さんから初めて電話をいただいたのは2000年の春のことでした。試練を通して、洗礼に導かれ、主からの平安が与えられたことを彼女からその時電話口で伺いました。



メアスブルグ家庭集會 2019年11月

それをきっかけに、当時、田辺先生ご夫妻をお迎えしての、私たちの始めたばかりの家庭集會に千恵子さんが出席して下さることになりました。わたしは十数人分の食事作りにはまだ慣れておりませんでしたが、その日参加して下さる方々に美味しい焼きそばを召し上がっていただこうと張り切って、15人分の

茹で麺を4つのざるに入れて置いたものの、それが大きなだんごのようにざるの中で固まり、途方にくれていました。早めにきてくださった千恵子さんは、その状況を察し、4つのざるの中の固まりを、額に汗しながら、根気強くほぐしてくださいました。それゆえ、無事に美味しい焼きそばをみなさんに召し上がっていただくことができ、本当に助かったことをよく思い出します。(茹でた後、油をふりかけておけばよかったのですが、。)

千恵子さんに捧げる ことばの花束

それ以降、千恵子さんは一度も欠席せずに大きな喜びと笑顔でもって、毎回美味しい料理とケーキをもって家庭集會に参加してくださいました。今まで出席して下さっていた、素敵な個性を持たれているお一人お一人の顔を今、静かに思い浮かべつつ、そのお交わりはわたしのかけがえのない宝となっていると思います。その、いつの場面にも必ず千恵子さんがいてくださいました。



また、とある日に、スイス日本語福音教会に初めて、千恵子さんをお

連れした際その日いらした、ゲルスタ先生から「基礎の学び」をわたしと共に学ぶようにと千恵子さんは勧められたので、往復2時間をかけて、数ヶ月程我が家に通ってくださるようになりました。みことばを通しての交わりは本当に私たちの人生にとっての醍醐味でした。

特に千恵子さんに感謝したいのは、わたしが10年前から始めた、教会音楽、オルガンの勉強のことなどです。彼女は心からいつも「しのぶさん、すごいね!」と力強く励ましてくださって、勇気づけられていました。彼女の方も毎日必ずアトリエに行っていたようです。今年の2月にも、日本のギャラリーで千恵子さんの個展をされたそうです。千恵子さんの作品は、石のオブジェも、スケッチもいつも温か味があり、素敵な陶器を窯で焼いていましたが、すべての作品が主の証として用いられるようにと願っておられました。



ルーマニア・クルージュにて 2019

2017年のイスラエル旅行の後から、千恵子さんは闘病生活を始めなければなりませんでした。化学療法が合い、食欲もあり、痛みもなく過ごされていましたので、2019年には共にイスラエル旅行、それからルーマニアにも行くことができました。

闘病中に、千恵子さんのためにみことばの励ましとなるなにかができないかと夫の憲二の考えから、スカイプでの火曜日の朝6時から8時ごろまでを私が29年間使い続けている、聖書の毎日のデボーション冊子「みことばの光」を使つてのデボーションを彼女とするようになりました。天に召さ

れる一週間前まで参加することができたことを本当に感謝しています。最後に彼女が祈る時にはいつも、千恵子さんのために祈ってくれている人々が祝福されますようにとの、美しい声がいまでもころの中にも響いてくるようです。

主が千恵子さんと私たちを引き合わせてくださり、主が私たちと共にいてくださり、主が今まで導いてくださった、ひとつひとつに感謝しつつ。



キリストのかおり・千恵子さんの思い出

内山和子

横須賀・馬場聖書教会

千恵子さんとはじめてお会いしたのは、たしか2014年ベルギーでのキリスト者の集いで、一緒にCSのご奉仕をさせていただいた時です。彼女の物静かで優しい笑顔に魅せられすぐにお友だちになりました。その後、彼女の病のことを知らされ祈っておりました。

2018年6月にスイスで再会した時にはスイス教会の修養会の礼拝で主の癒しの恵みを力強く証しされ主の御名を賛美しました。自由時間には一緒にアルプスの散策をしながらいっぱいお喋りしたのも忘れられない思い出です。そして昨年の夏にはルーマニアで再会を喜びあいました。その時彼女からいただいた白いペンダントを今毎日胸にかけて彼女の笑顔思い出しています。

今年の2月に彼女からスイスの綺麗な花の切手の貼られた葉書を受け取りました。湘南の鵠沼海岸の画廊での個展のご案内でした。嬉しくて早速主人と出掛けました。壁一面に彼女の作品が展示されていて彼女とそこでお会いしているような幸せな気持ち



になって帰宅しますと、すぐに彼女からありがとウのラインが届きました。画廊で撮った写真をお送りしたら彼女から「お写真ニコニコ拝見させていただきました!」との返信。6月にまたスイスで会えますようにと祈りあいましたのにその後1ヶ月余りで天国に旅立たれるなんて!!未だに信じられない気持ちですが、彼女の放たれたキリストの香に心満たされて天国での再会を待ち望みます。

主を愛し追い求め

川井佳代子

トランシルバニア日本語集會

ヨッパにタビタ（ギリシヤ語に訳せば、ドルカス）という女の弟子がいた。この女は、多くの良いわざと施しをしていた。（使徒の働き9：36）

初めて千恵子さんにお会いしたのは、2008年ドイツのヴィッテンブルクで行われた集いの時、千恵子さんから声をかけてくださいました。

主を愛し追い求め、いつも喜んでいた千恵子さんの笑顔にどんなに励まされたことでしょうか。ルーマニア宣教も応援してくれ、いつもさりげなく献金をくださいました。

「桜喫茶で使ってもらえたら嬉しい」と手づくりの陶芸茶

碗や最近では、十字架がデザインされた焼き物のペンダントをプレゼントしていただき、宣教のためにもたくさん作ってくださいました。癒されることを信じていたので本当に残念です。去年の集いは、ご主人とルーマ



キリスト者の集い・ブラハ大会にて 2015

ニアに来ることができ、オプションツアーにも参加できて最後に一緒にゆっくり時間を過ごす事ができて感謝でした。千恵子さんを主に感謝します。

愛に溢れた笑顔に優しさ

工藤篤子

工藤篤子ワークショップ・ミニストリーズ

千恵子さんが召されたというお知らせをいただき、天のお父様のところへ行かれたことを知りつつも、いつも愛に溢れた笑顔と優しさで私たちを和ませてくださった千恵子さんを思い出し、涙が溢れ



キリスト者の集い・ゲセケにて 2005

千恵子さんに捧げる
ことばの花束

ました。

キリスト者の集いでは、アンツカさんが賛美チーム、聖歌隊で毎年一緒に奉仕してくださるようになってからは（テノールもバスも歌えるアンツカさんは、聖歌隊の大きな支えでした）、千恵子さんが連絡係、仲介役になってくださり、日本語の楽譜にローマ字でフリガナを付け、アンツカさんと賛美チームを支えてくださいました。

癌、ウイルス、病に激しい憎しみを覚えますが、キリストのいのちが、それらすべて、私たちを苦しみと死に至らせるものに、イエス様ご自身の十字架の苦痛と死をもって、打ち勝ってくださいましたことを心から感謝したいと思います。

アンツカさんもお辛い時が続くと思います。どうか、主が、悲しみを包み込む慰めと励まし

を注いでくださいますように！

いつも御言葉を携えて

へス明美

スイス日本語福音キリスト教会

2009年3月、数年おきにスイスへ遊びに来ている両親が、休暇で再びスイスへやって来た。今回は家族みんなでドイツの温泉旅行を計画。訪れた先は、なんと千恵子さんの住む温泉地だった。



フランクフルト日本語教会の修養会で 2014

ただただ感心と感動するばかりだった。本当に楽しいお交わりを持たせて頂き、おうちを後にし、少し観光してからホテルに戻ると、娘の忘れていったDSがホテルに届いていた事に、またも心から感謝！

千恵子さん程、いつも御言葉を携えて、また常に笑顔だった方を私は知らない。沢山の美味しいスイーツとお料理をご馳走さまでした！千恵子さんが愛情を注いで大切に育ててくれた紫蘇を見る度に、これからも彼女を思い出すことでしょう。

キリストの香り
シスター・ソハラ
マリア福音姉妹会

「佐々木千恵子姉妹とは、夏の集いの時にのみ、お顔を拝見し、一言二言、言葉を交わさせていただきお付き合いでしたが、大病との闘い、また厳しい治療のさ中にありながらも、キリストの香りを、内側から豊かに放たれる彼女の存在と笑顔を見せていただけたことを心から感謝し、イエス様がなしてくださった御業を讃える者です。

今は主の御許で、その何倍も輝いているであろう姿を思い浮かべています。憐みに満ちた主がその御業を私にもなし遂げてくださいますようお願いしつつ。



ブルーリボン
の祈り会
プラハにて
2015

千恵子姉への手紙
松林幸二郎
スイス日本語福音キリスト教会

久々の慈雨に、我が家の小さな庭の鈴蘭、アネモネ、オダマキ、千恵子姉が愛した色とりどりの花が生き返ったように咲き誇っています。姉が天の国に帰ってしまわれてから、すでに一ヶ月たってしまいましたが、いまだに信じられず、ほぼ毎日下さったメッセージを見ようと、Lineの画面をふと覗いてみます。底抜けに明るく喜びに溢れた”ハレルヤ！主を賛美します！”のメッセージは、3月22日がこの地上における姉の最後のものとなってしまいました。

Jesus lebt! (イエスは生きています！)

Jesus liebt dich! (イエスはあなたを愛している)と竹ペラで刻まれた千恵子姉が自ら焼かれ、スイスの我が家にお土産として持参下さったスープカップは、美しく愛らしく暖かく、それは姉の性格そのもののようで、我が家には欠かすことの出来ない食器となっていて、雨降る小寒い今日も私たちの身も心も温めてくれます。きっと、これからも姉の食器を使うた



千恵子さんに捧げる
ことばの花束

びに、姉がこの地上に残してくれた多くの暖かな思い出とともに姉の優しい笑顔を思い浮かべることでしょう。

キリスト者の地上におけるゴールは、いうまでもなくキリストに似た者となることです。私たちに愛そのものの千恵子姉は、豊かな芸術的才能が与えられ、誇ることもできた筈なのに誇りのかけらさえ見せられませんでした。その賜物をひたすら人と神に仕えるため惜しみなく捧げておられました。そんな姉の姿に、私たちはキリストの香りを放つイエス様の似姿をみたものです。

地上に残された姉の愛する夫君のアンツカ兄は、日本語が支配するキリスト者の集いや日本語教会の集会には欠かさず出席されていました。理解できない日本語の環境に退屈もされ、忸怩(じくじ)たる思いもあったに違いありませんが、姉を愛するが故、そんなそぶりを決して

見せなかったものです。互いに寄り添い支えあう二人の夫婦愛に、私たちはキリストの愛を見たものです。アンツカ兄



クルージュで共に過ごせた数日は神様からの贈り物

は、半身をもぎ取られたような辛い悲しい思いをされているに違いありません。どうか、主よ、アンツカ兄を慰め、姉の分まで生きる力を与えたまえ！

千恵子姉は、私の長年の小さな奉仕(ニュースレターの発行や、連絡係としてのお知らせの発信)に、即座に”ハレルヤ！主を賛美します。主のための尊いご奉仕に感謝致します。ご家族に主の祝福がありますように！アーメン”と労をねぎらうメッセージを必ずいただきました。それは、私になんと大きな励ましを与えてくれたことでしょう！！いくら感謝しても感謝しきれないのは、地上に残された私たちのほうです。キリスト者の愛とは信仰とはなにかを、姉はいつもさりげなく行動と態度で示して下さいましたね。

千恵子姉は、いまごろ大好きだったイエス様のそばで、地上でもそうだったように、とりなしの祈りを捧げておられることでしょう！私たちは天国での再会をいまから心から楽しみにしています。あの優しい笑顔を満面に浮かべた姉に再会できることを、、、、。



良い忠実なしもべ

高橋みどり

西荻チャペル

千恵子さん!

千恵子さんとは“キリスト者の集い”でお会いしただけです。実際には4回だけでしょうか?でも私の中では、彼女の姿が強く焼き付いていて、長年の信仰の友である感覚があります。

いつも太陽のように明るく、満面の笑顔で周りをパーっと明るくし、私は笑顔でない彼女の顔を見たことがありません。ご自分が病んでおられるのに、他の病んでいる人のために祈り、気遣っておられました。

主人も同じ頃から病を得、よく千恵子さんの事を話題にしては励まされ祈っていました。

きっと今頃は天の御国で完全なからだに変えられ、主の安らぎの中におられ、「良い忠実なしもべ、よくやった!」とお褒めの言葉を頂いていることでしょう。

短い期間に、こんなに心に残っている方は他にいません。きっとこれからも心に残り続け、励ましを受ける事でしょう。千恵子さん、主に

忠実なしも 2014 ベルギーでの集いにて
べの姿を示して下さった人生を有難うございます。ご主人をはじめ、ご遺族の皆様の上に主からのお慰めと励ましがありがとうございますようにお祈りいたします。



千恵子さんに捧げる
ことばの花束



今も生きておられる千恵子さん

田辺みや子

奥多摩福音キリスト教会

未だ生きていらっしゃるようで、何をどう文章に綴ったら良いのでしょうか?余りにも沢山有りすぎて。。。彼女の作品に取り囲まれています。名入りのカップ、集会のたびごとテーブルの上に置かれていた洗濯バサミ。デーガロッホの集会のお知らせも、私たちが本帰国した後で



も忠実に送って下さり、それに応答すると、又、必ず声が聞こえてくるような返信☺



2010 アデルボーデンでの修養会

主は彼女の中に生きていてくださいました。そして千恵子さんは主のもとに旅立たれましたが、千恵子さんに愛された私たちの心の中に今も生きておられると確信しています。

♪ 湧く涙の意味 げに誰かは知る 世に在る間は 知ることやなからん。されども知るを得ん 全てをさやかに御国に昇りて 主を見まつる朝 ♪

新聖歌 512 「エノクは神とともに歩んだ。神が彼を取られたので、彼はいなくなった。」 創世記 5:24

アッジをとともに巡礼して

中山博幸

ブリュッセル日本語カトリック教会

佐々木千恵子姉とアンツカ兄と一緒にアッジとローマを巡礼した時のことを思い出しています。旅行中、高齢の参加者の女性をかいがいしくお世話していた姿が目につかびます。



アッジ巡礼のとき 2016年

無条件に愛すべき人でした

コイ和子

ドイツ・コンスタンツ在住

千恵子さんとの最初の出会いは四半世紀も前。仕事で北上中、Concertで会い、彼女の言動に一目置いたものですが、性格の良さは溢れる愛だったんですね。

卑屈になったり、世の中の不都合に苛々していた愚かな私に、明るい陽射しを与えてくれた素晴らしい人でした。今でも彼女の声が聞こえます。慈愛に満ちた笑顔が見えます。料理の腕も抜群。キリスト者の中で、無条件で最も愛すべき人でした。千恵子さんとの楽しかった貴重な時間に感謝、と言っても慰めにならない凄絶な気分を持て余します。大好きな人でした。

キリストにある愛

小山由美

シュトゥットガルト日本語教会

シュトゥットガルト日本語教会の役員でおられた佐々木千恵子姉が、長い闘病生活の後4月2日の朝、主の元に召されました。心から哀悼の意を申し上げます。

千恵子さんは日本語教会の役員であり、デーガーロッホ集会の責任者、そしてヨーロッパキリスト者の集いの代表者として、長い間、きめのこまかいご奉仕をして下さっていました。他の方にはない素直で、純真なあの笑顔が私達の胸の中に今もはっきりと残っています。

千恵子さんは素晴らしい祈りの方でした。毎朝人の為に祈りつつ散歩をなさっていました。役員会のスカイプでの祈り会も立ち上げただけでなく、必要としておられる方々との個人的な小さな祈り会を持ち、多くの方々の心の支えとなっておられました。

千恵子さんはいつも人のことを思いやる愛に満ちていました。デーガーロッホ集会では、毎回お花を届け、来る方一人ずつのお顔を思い浮かべながら、その日の聖書箇所を手作りの葉に書き込み、かわいい毎回違ったアクセサリーをつけて配って下さっていました。



千恵子さんに捧げる
ことばの花束

千恵子さんは押し付けがましい伝道を嫌われて、心からもてなすお心で人に接しておられました。私にも何度も"これはあの方の負担にならないかしら?"と心配しておっしゃる気配りの方でした。

千恵子さんはカトリック信者でありながら、プロテスタント日本語教会の会員として、超教派のシュトゥットガルト日本語教会を大事にしておられました。そして、心ない方々の言葉に大変心を痛めておられました。主イエスキリストにある愛と一致を最後までおっしゃっておられました。

千恵子さんと時々天国の話もしました。庭の花々を見ながら、天国はこの庭とそっくりなのだと言いながらお話ししたことも忘れることができません。

愛する兄弟姉妹の皆さまの

祈りと共に、千恵子さんは、今イエスさまとお会いして花々の咲く天国に笑顔でおられると心から信じます。

最後に千恵子さんのいつもお傍にいらしたAnsgarさん、息子さんの天詩さんご家族の上に、主の平安とお守りがありますように祈りつつ。



みな主にある兄弟姉妹

佐々木千恵子

シュトゥットガルト日本語教会

主を賛美いたします！
ハレルヤ！

ルーマニアでのキリスト

者の集い実行委員方々はじめ、ご奉仕にあたられた方々、その多大な主の尊いご奉仕に心より感謝いたします。準備また後処理と、どんなに大変かと思えます。おかげさまで、大変祝された時間となりました。ドイツ語の通訳も用意くださり、主人がドイツ人ですで大変ありがたい、たくさん貴重なメッセージを聴くことができ、賛美も素敵で恵まれました！
みな主にある兄弟姉妹、久しぶりにお会いす



Castle Banfy (クルージュ郊外にて)

る方々、お顔が見られうれしかったです。長年行ってみたいと思っていた*さくら喫茶店*にも、足を運ぶことができ感謝でした。

クルージュの町はラテン系の暖かいイメージでしたが、美鈴さんのお話なども含め共産圏だった時の大変さも、実際その場に行って少し理解することができました。

オブショナルツアーも参加させていただき、私たちをお招きくださった教会、日本語の歌も用意くださり迫力でした！また世界遺産などみることもでき、感謝いたします。

川井先生が脂汗ふきふき、けなげに、皆さんにとって良い旅になってほしいと、バスで一生懸命お一人お一人に語りかけてくださり、頭が下がりました。お疲れでないでしょう。

主の祝福に満ちたルーマニアの時間を過ごさせていただき心より感謝します。



パンデミックとキリスト者

人間は神様の被造物

フリードリッヒ希興子

ハンブルグ日本語福音キリスト教会



今年の始めに、新型コロナウイルス感染症のことが、報じられるようになった時、私は対岸の火事のような気持ちで、聞き流していました。今は、外出自

粛、集まり禁止な

どの措置がとられ、毎週の礼拝、祈祷会、月一回の家庭集会などを開くことができず、礼拝や祈祷会は、テレビ会議方式でもたれ、その他の集まりは、お休みです。

週2回、定期的に行っていた隣町に住む3人の孫達の子守も休業中で、電話で様子を聞いたり、散歩の途中、立ち寄って庭を駆け回る彼らの様子を遠くで見る日々です。このように、いろんな制限がある中、ハンブルグ日本語福音キリスト教会は、4月6日から同時刻祈祷を始めました。毎朝8時から、新型コロナウイルス



感染症が早く収束するように、患者の方々が癒やされるように、一日も早くワクチン、治療薬が開発されるように、研究者、医療従事者、患者の家族、国のリーダー達のことなどを、祈っています。

私も、毎朝、参加するようにしています。ペンテコステの日ごろまで続けられる予定です。この祈りに参加を表明してから、毎朝、主のみ前に出ることをはっきり意識するようになりました。そして、平安の中に一日を始めることができ

ています。新型コロナウイルス感染症もすべて、神様がご存知で、脱出の道が必ずどこかに用意されているという安心感が与えられます。人間は、大いなる神さまの被造物で、有限である存在だということを改めて意識し、今、主の前に悔い改め、へりくだらなければならない時だと思います。親族、友人を亡くされた方々、困難の中にある方々に主からの慰めがありますように。

わたしは、あなたの祈りを聞いた。あなたの涙も見た。見よ、わたしはあなたを癒やす。列王紀 第二 20 章 5 節

祈りと問いかけの日々

永井敏夫

欧州日本人宣教会



心が委縮しやすく、かつ固くなりやすい状況の中で私たちは生きている。「今まで」から「今」に繋がるものが、果たして「これから」も継続されていくのかは分からない。しかし、私たちが今という時代に生きるように計画しておられるのは神ご自身である。主が私たちの全てであることを改めて思い起こしたい。

今まで教会の礼拝で人々と顔を合わせることをほぼ当然のように思っていた私たちは、それが叶わない中を過ごしている。(ズームなどを用いての礼拝も感謝だが) けれども互いの繋がりは祈りによってさらに強められる。祈りは時空を超え、主のもとに確実に届いていく。「愛するあの人を覚え、一緒に祈ってくれないか」という聖霊の声を聞いて歩みたい。

また、かつて礼拝を共に献げたあの人たち、主の愛をまだ知らずに拒んでいるあの人たちのことを覚えて祈りたい。医療現場等で日々身を粉にして人々に関わっている人々、また最愛の人々を亡くした方々の存在も忘れ

てはならない。政府や行政のリーダーたちが一番弱い立場にいる人々のことも忘れずに良い判断と決定ができるように祈りたい。今この時、目を閉じ、自らを「祈りの家」としつつ、祈りを主に献げようではないか。

今までより時間が与えられているこのシーズン、自分が本来のありようを大切にしているかを問いかける時としたい。私は神にどの位信頼しているだろうか。とりなし手として立ち、誠実に生きようとしているだろうか。自らを再び点検をしながら私は与えられている時間を過ごす者でありたい。心を騒がせず、何にも恐れることなく、両手で主がくださる平安を受け取りながら歩みたい。

「わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなた方に与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。」(ヨハネ14:27)

ダニエルの祈り

シスター・ソハラ

ダルムシュタット・マリア福音姉妹会



今回は私個人で書くことはないのですが、寄稿について考え祈っていた時、今の状況で愛する兄姉の祈りの助けとなればと思い「ダニエルの祈り」と『祈りの石垣を築けー執り成しの祈りへの手引き』(ハバリア・シュリンク著)からの抜粋を掲載していただき、皆様に使っていただければ幸いです。

*シスター・ソハラよりお送りいただいた「ダニエルの祈り」の抜粋部分を別資料として添付しておきます。どうぞお読みください。 <https://drive.google.com/file/d/1RiQsqRq60-BG09Xbo1nQTLvMF61Vmwo9/view>



パンデミックとキリスト者

疫病蔓延の世界の中で

ルドック 三木 智子

Hopewell Christian Deliverance
Centre ジャマイカ



2020年がこのように始まる年だと誰が想像できたでしょうか。{1月に中国の武漢から発したコロナウイルスの蔓延。4月19日現

在 210カ国にわたり感染者2百万以上、死者16万以上。夏の東京オリンピックも来年に延期。スポーツその他が世界中で中止や延期。多くの飛行機も止められ入国拒否の国も多い。何時になったら以前のように世界各国と行き来出来るのだろうか。経済界も多くの問題を抱えている。}一体何故このようなことが起きたのか。

最近、ソロモンの後のイスラエル王国(北王国)に関する本を読んでいた。残念ながら神に喜ばれる王は一人もいなかった。人類の歴史を考えると多くの戦争、奴隷制度その他、どれもこれも神の御心に反する行為ばかりである。神の戒めは神を愛し、隣人を愛し生きていくことである。そうすればバランスある素晴らしい世界で人間は幸せな人生を送ることができる。



創造主なる神は人類がこの世界を正しく管理していくことを望んでおられる。ところが人類は神の言葉を無視し自然を

破壊し続けてきた。貪欲な物欲によって。そして今も自分勝手な生き方を続けている。詩篇106篇29節「その行いは主を怒らせ疫病は彼らの間に広がった。」(民数記 25章3節 参照)

今回再度強く確信したことは祈りの大切さ。先ず霊的世界を変えていくことが重要。自分の周りの地域社会の為に勿論、自分の国、今住んでいる国、そして世界中の国のために。各国のリーダーや多くの政治家が創造主を信じ崇めて、弱い人、社会の底辺にいる人々のために行っていく政治の実現のために、今以上に祈ること。

最後に、私たちキリスト者はこの世を去った後、行く所がはっきり分かっているので感謝です。今回のウイルスのようにイエス様の福音が早い速度で世界中の人々の心に届きますように!!

どんなことが起きても

中井美鈴

Calvary Chapel South Bay (USA)



「草は枯れ、花はしぼむ。しかし、われわれの神の言葉はとこしえに変わることはない」イザヤ書 40:8

かつて経験したことの無いコロナウイルスの疫病、聖書に出てくるあの恐ろしい疫病。民数記の16章にも、モーセがアロンに彼らの為に罪のあがないをしなさい。という描写があります。薫香をたいて罪のあがないをし、すでに死んだ者と、なお生きている者との間に立つと、疫病はやんだ。。。と。世界各国からいろいろな情報、意見が発信されていま

す。こちらNYをはじめ各州が隔離に入り、今日頃から封鎖解除あるいはもう少ししばらく様子を見て。。と各州の意見は様々、そして人々の意見も違います。

教会も閉められ、ある所では車の中にいるままで礼拝ライブを見るといった事もしていました。私達の教会も3月15日をもって全ての集会を閉じました。と言ってもオンライン同時ライブ、ズームミーティングは活発になされ、牧師達からの励ましの言葉、信徒間のメール、テキストは以前にも増して活発に飛び交っています。まさしく教会とは建物ではなく、キリストにある兄弟姉妹である事が実証されています。

私はといえば子供達の意見で「何処にも行かないで」。必要な物は全て配達されています。あまり出歩いて迷惑をかけるのではない様にと、家の中で過ごすことが多いのですが、健康を支えていく為に庭仕事は毎日する様に心がけています。隔離に入って40日目になりました。マスクはこの国では不思議がられていた物の一つですが、今それが無くては歩けない状態ですので隣人のアメリカ人が笑いながらはなします。

家の前を散歩する人達の数が多くなってきました。養老ホームに毎週行って礼拝を共にしてきましたが、ウイルス感染者がスタッフにも居住者にも出ていて死亡した人達もいるとニュースで知っても生物学的に親子でないの、名前も教えてもらうことが出来ないのは辛いです。本当に全てをご存知の神に祈るより他に今出来ることはありません。

いづれ解除されることにはなるでしょうが、その後の事も決して楽観視出来ないでしょう。これが次の波に乗る分岐点なのかなと思わされる期間でした。どん





パンデミックとキリスト者

なことが起きてても創造主なる神が生きて働いておられるから絶対大丈夫。クリスチャンにさせていただいた事、心底から感謝です。十代の頃に暗記していた好きな詩がこの様な時にふと頭の中によみがえりました。

「草原が輝いていた時、花が美しく咲いていた時、それをとり戻すことはもうできないけど、私達は嘆かないことにしよう。そして、その奥にまだ残っている生命の力を見出すことにしようではないか。」

けれども、それに勝る素晴らしい神の不変の言葉が力強く励ましてくれます。その言葉を添えて、皆様方に主なる神の祝福と守りがあります様にと祈りつつ。

「よきおとずれをシオンに伝える者よ、高い山にのぼれ。よきおとずれをエルサレムに伝える者よ、強く声をあげよ 声をあげて恐れるな。ユダのもろもろの町に言え「あなたがたの神を見よ」と。見よ、主なる神は大能をもってこられ、その腕は世を治める。見よ、その報いは主と共にあり、そのはたらきの報いは、そのみ前にある。」イザヤ書 40:9-10

神様の愛の感染拡大

馬場晶子

ロンドンJCF



イギリスも3月23日夜からロックダウンが始まった。折しもロンドンJCFの主任牧師の帰国の日と重なった。先生の最後の説教があった22日から英国全土で教会が閉じられ、礼拝が中止となった。このようにして始まった当初3週間のロック

ダウンも、更に3週間継続されることとなり、4月25日現在も解除の見通しは立っていない。

英国での感染はみるみる拡大し、死亡者の数はすでに2万人を超えている。ロックダウンによって私たちの日常生活は完全に変わってしまった。学校は閉鎖、仕事も在宅に変わり、外出は1時間以内の散歩と買い物だけ。家族間であっても同居する家族以外には会うことも、訪ねることもできず、友人にも会うことができない。これまでの普通が突然普通でなくなる、まるでSF映画の1シーンを見ているようだ。

しかし、このような

不自由な生活の中

で、感謝に思えることもたくさんある。全ての予定がキャンセルとなり、これまで音信不通であった世界中の友人、

知人に電話や、ネットを通して連絡が取れるようになったこと。そのような人々に躊躇なく福音を伝えることができること。神様との交わりの時間がたっぷり取れるようになったこと。これまでは忙しくて主人との朝のデボーションもそこそこだったが、今では毎朝ともにみ言葉をきき、分かち合い、祈りあえることが最高の楽しみ、喜びとなっている。

たとえ遠くに出かけられなくても神様は美しい自然を通してその愛を伝えてくださっている。身近な花や鳥や、自然を慈しむことができるようになったこと。ネットを通して届けられる毎週のメッセージは、無牧となったロンドンJCFに大いに励みとなっており、自主的な祈りのグループも姉妹間で立ち上がった。コロナの感染拡大に負けず、今こそ神様の愛の感染拡大を目指し、全世界が立ち止まって神様を仰ぎ見ること。これこそ神様が私たちに今願っておられることではないだろうか。



主を待ち望む

大八木タピタ

川崎市・菅生キリスト教会



コロナ禍の初期に支えになったみ言葉は、ヨハネ20章19と21節です。共に一

か所に閉じこもって恐れている弟子たちに、イエス様は平安を与えます。そして、弟子を世に遣わします。私たちそれぞれに、何か主に示されることがあるのでしょうか。つまり、人に会えない中、自分に何かできることがあると思います。

今は、詩篇91篇と向き合っています。確かに、主は、ご自分に信頼する者を感染から守ることができますが、だからと言って、信者は感染しないと限りません。たとえ感染したとしても、主が守り導いて支えてくださいます。ですから、ピリピ1:6~7の通りにしたいと思います。

私たち家族は元気です。教会の兄弟姉妹も元気です。2月末からはもう集会に来られなくなった方もいますし、今でも礼拝に集う方もいます(10名ぐらい)。そして、ズームミーティングを始めました。パソコンやスマホの画面で、離れていても会えます。画面の前で祈ったり、賛美歌を歌ったりするのはまだ慣れませんが、皆の元気な姿を見れてとてもうれしいです。

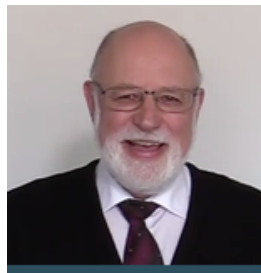
子どもたちは、新学期が始まっても、登校できません。月一回の登校日でも、一人10分ずつ先生に会う形です。この状況はあと一か月続きます。うちの二人は、長〜い休みを喜んでいますが、宿題もたくさんありますが、一日の流れはゆったりしています。夫は、幸い3月上旬に職場は、都内の神田校舎からこの近くの生田校舎に変わり、神様に感謝しています。今はお休みですが、普段、毎日通っています。



パンデミックを乗り越える信仰

マイヤー・マルチン

スイス日本語福音キリスト教会



これらのことが起こり始めたら、身を起し、頭を上げなさい。あなたがたの贖いが近づいているからです。ルカ 21:28

この僅か二ヶ月の間に世界は全く変わりました。遠い中国のどこかで危ないウイルスによる病気が発生したとのニュースは、ヨーロッパに住んでいる私たちの話題になりました。そして、たちまち全世界も同じような状況になってしまいました。ロックダウン、マスクをかける義務、商店にある品物が売切れ、子どもですら室内に留まらなければならないと言う勅令、特に高齢者は非常に危険な年齢と言われ、社会全体が今まで経験したことがない深刻な不安に襲われるようになりました。

顕著な事実、世界中どこでも同じような酷い状況になったことです。また、COVID19に対しての感染防止対策も、世界中どこでも同じようなものになったことです。聖書的視点を持つとして私たちが信仰者は、これらの出来事をどの様に理解すべきでしょうか。私は、このパンデミックは確かに終末的な意味もあると思いますが、終末的な意味を無理に探したりすることは危険も伴います。その一つは、間違った憶測です。もう一つは不安になることです。両方とも、キリスト者にふさわしくないものです。



終わりの時代に関して、主イエス・キリストは大切なみ言葉を与えてくださいました。その中には「疫病」も預言されています。

それから、イエスは彼らに言われた。「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、大きな地震があり、方々に飢饉や疫病が起こり、恐ろしい光景や天からの大きなしるしが現れます。」ルカ21:10-11

しかし、イエスはこれらのことを恐れないようにとも注意しました。

これらのことが起こり始めたら、身を起し、頭を上げなさい。あなたがたの贖いが近づいているからです。ルカ21:28

終わりの時代に関しての聖書のみ言葉には、その他に数多くの注意や預言が与えられています。その中には、世界中に散らばされた

イスラエル人が約束の土地に帰り、さまざまな意味で世界の中心的な民族として注目を浴びると同時に、ますます敵対される民族にもなると言う預言があります。現在、これらの預言は、すでに成就したか、成就しつつある時代になりました。

またその中には、終わりの時代に登場する、世界を支配しようとする「反キリスト」(Antichrist)の出現も預言されています。今は、けれども、その時ではありません。しかし、コロナの蔓延によって、時代はそのときが来るための実験室のようになっているのではと思います。つまり、全世界は、今日まで経済力と政治力という二つの最も大きな力によって左右されてきました。というより、今までは、経済力はなんとなく政治力より影響が強く、政治力すら左右できる状態でした。が、今回のパンデミックによって、あっと言う間に、経済力は押しつぶされ、政治力が経済を左右するような、逆転の状態になってしまいました。これは、将来に反キリストが必要とされるシステムの実験段階かのように感じさせられています。

とにかく、私たち信仰者は、世界の移り変わりに目を奪われるよりも、信仰の完成者である主キリストにしっかりと目を留める必要があります。世の中に起こる出来事をよく観察し、心の備えに力を入れ、携挙と主の再臨を待つべきです。と言うのは、このパンデミックによって体験しなければならない欠点のみを見つめるのではなく、与えられている利点を捉える必要があると思います。

利点は沢山あります。例えば、

- 世の中は、誰でも感じられるように静かになりました。車の数が少ない。都心でも人の数が少ない。お店が閉まっているところが多い。ある意味では、安息のときが与えられているように感じさせられます。感謝すべきです!
- 集会は、ロックダウン状況の中にあっても、ビデオ会議の技術のお陰で、より簡単、そしてより多く開かれるようになりました。
- ビデオ会議という集会の持ち方のお陰で、今まで参加しなかった方でも、違和感無しに参加できるようになりました。集会の参加者が増えてきたように感じています。
- 信仰者としては、個人的な小さな思いわずらいから目を離し、本当に大切な課題に目を向け、主の再臨が近くになったことを覚え、心の準備ができます。
- 主が来られるまでに残された使命を見つめ、求道中の方々のためにより熱心に祈ることに加え、証しと学びの時をより多く設けることができます。
- 少しでも時間のゆとりができたお陰で、み言葉に専念する時間を多く割いて大事にすることができます。

コロナによる諸制限が一日も早く解除され、元通りに交わりの集会が与えられるように祈ると同時に、主がこの制限の中においてでも、多く与え、良くして下さったことを何一つ忘れないように注意したいと思います。

皆様も、コロナウイルスに感染されないように、心身ともに元気でいますよう、主の働きに励むことができますようにお祈りいたします。

